

トークサロンこの1年

さがみはら市民会議では、ネットワーク委員会の手で「トークサロン」が開催されています。トークサロンは市民と市民をつなぐ市民会議らしいユニークな試みです。どのサロンも活動紹介があり、交流を深めることができました。会員の皆さんにもお知らせしたいと思い会報を発行します。来年度こそ是非ご参加を！！

今年のトークサロン一覧

	開催日	テーマ
第29回	6月27日(土)	コミュニティ活動からみえる地域の課題
第30回	8月1日(土)	私たちにもできる海外支援～毎日の暮らしを通して考える
第31回	10月17日(土)	地域でがんばる男達
第32回	2月20日(土)	手軽にできるCO2削減 ～家庭から考えるエコ問題

第29回 (参加者17人)

コミュニティ活動からみえる地域の課題

開催場所: 相模原市立串川ひがし地域センター 会議室
参加人数: ゲスト2人、一般11人、会員4人

広くなった相模原市には、その地域ならではの活動を続けている団体が沢山ありますが、今回は津久井地域で活動している「リサイクルよつば」の上村さんと「ふじのおたすけ会」の船橋さんをお招きし、会場を現地に移して、活動から見てくる地域の魅力、抱えている課題、今後の抱負を伺いました。



「リサイクルよつば」は、会員は50名位で、毎日の生活を通して「もったいない」の気持ちを活動

の形にし、多岐に渡った活動を展開していますが、各人が生き甲斐を感じて、それぞれの活動に拘わっており、予防介護のたまり場のような感じのエネルギーのある明るい団体でした。活動で作った「布草履」、「エコ石けん」、「エコた

わし」等を持参してくれましたが、楽しみながら活動している様子がわかり、これが継続の根源と感じました。

「ふじのおたすけ会」は、過疎地と云われるこの地域に高齢者の方が住み続けられるように「住宅に関して手伝う男性シニアボランティア」の会です。



平成16年の設立時には依頼件数が26件だったものが、平成20年度には56件と倍増しました。これは2700戸の家庭にチラシを配り情報を流していること、関わったお宅に、年3回手紙を出していることなど船橋さんの人間的で温かいお人柄が滲み出ていることの表れだと思いました。「住みよい町づくりをめざし会員の特技(草刈り、庭木の剪定及び除草等)を生かした助け合い活動を通じて仲間づくりの交流と生き甲斐を高める事」が目標の団体です。

今後も、津久井地域に出張ったトークサロンを企画していきたいと考えています。(滝口)

第30回 (参加者14人)

私たちにもできる海外支援～毎日の暮らしを通して考える

開催場所: 相模原市立大野北公民館 中会議室
参加人数: ゲスト3人、一般6人、会員5人

賞味期限を過ぎるとそっくり捨てられてしまうコンビニのお弁当、たんすのこやしと言われる有り余る衣料。ペットボ



トルのキャップだって、缶詰の空き缶だって、たくさん集めれば何かが変わる。日常の暮らしの中から簡単にできる海外支援を考えてみました。ゲストは「NPO法人WE21 ジャパン相模原」の三池さん、「ライトオブザワールド」の内海さん。

「NPO法人WE21 ジャパン」は、リサイクル品の売上を海外支援にあてている団体で、1998年に厚木に第1号店を出店し、現在県内に53店、県央は11店、相模原市では3店(若松、南台、淵野辺)が営業している。収益金でアジ

アの女性支援をしている。支援内容は、生活者の力を高める事、学びの場作りをする事。スタディーツアーをして顔の見える関係を作っている。文化の違いがあるから物は送らない。

「ライトオブザワールド」はフィリピンで市から借りた土地に教室を立て、学校へ行かれない子ども達に勉強をさせる活動をしています。教室建設費に30万円、教師の給料と電気代に30万円が必要。そのほか帰国する時は、お米、夏物の古着等を持っていくようにしている。資金作りのために、アルミ缶を集めている。さくらまつり、公民館まつり、国際交流フェスティバルに出店してその売上をあてたり、寄付をお願いしている。(益子)

第31回 (参加者15人)

地域でがんばる男達

開催場所: さがみはら市民活動サポートセンター 会議室
参加人数: ゲスト4人、一般4人(大学生以下1人)、会員7人

長引く不況や雇用、子育て、介護の不安…ついつい、気持ちが沈みがちな話題ばかりが並ぶ今日この頃ですが、



そんな中でがんばっている人たちからパワーを分けていただきたいと企画しました。

ゲストは「東林ボランティアの会」の中山さん、「理科で遊ぼう会」の田中さん、PTAのOBで最近「あしたばの会」を立ち上げられた小野沢さんの3名を迎え、活動の状況や地域活動を行っていると感じることなどをお話していただきました。3名の方の活動の内容が違っているため、苦労している点などに違いはありますが、参加者からも「実践者のお話しにパワーをもらった。」という声が聞かれました。また、企画担当者としては、「どうして地域活動を始めようと思ったか。」という疑問をゲストに投げかけていたのですが、お話を聞くうちに、始めようと思ったきっかけよりも、それを継続してきた力みたいなものが、3名の方に共通しているのかなと思いました。(鹿野)

第32回 (参加者7人)

手軽にできるCO2削減 ~家庭から考えるエコ問題

開催場所: さがみはら市民活動サポートセンター 会議室
参加人数: ゲスト2人、一般1人、会員4人

地球温暖化が世界的な大きな課題となっており、私たち自身もCO2削減対策に取り組むことが必要です。ゴミを出さない工夫等、どんなささいなことでも積み重ねていくことが大事です。今の自分に手軽にできるCO2削減対策について話し合いました。ゲストは「さがみはらリサイクル連絡会」の木地本さんと「環境ステップアップの会」の畠山さんに、手軽にできるCO2削減方法についてお話をお聞きしました。

「さがみはらリサイクル連絡会」では、ゴミを減らすためリフューズ[断る]、リデュース[減らす]、リユース[再利用]、リサイクル[再資源化]の4R運動を推進しています。一般には、リフューズ[断る]を除く3R運動ですが、相模原市では一歩進んだ4R運動を推進しています。また、生ごみを減量・堆肥化して活用するグループへの助成として、相模



原市に働きかけ、「有機性資源活用事業補助金」を誕生させました。「環境ステップアップの会」では、自前でリユース食器を購入し、無料で貸

し出しをする等、リユース運動を行っています。風呂敷の利用を推進する活動や生ごみのリサイクルとして、ダンボール箱を使って生ごみ堆肥を作る活動にも力を入れています。畠山さんはダンボール箱の堆肥作りは、生ごみを食べるペットを飼っているような感じと、楽しく環境活動を行っているように見受けられました。(神田)



★★★★★★★★★★



さがみはら市民会議の独自事業として様々な会合を行ってきましたが、第32回までできました。一つ一つの会への参加者はそれ程多いわけではありませんが、積み重ねてきたものは確かなものがあるように思います。

市民同士がつながること、政令指定市になったからこそ、大切なことのように思えますね。(T. N.)

政策情報委員会